

# unjour

2024  
春

いつもどこかで素敵な出会いを



## 一体となって “合わせていく力”

極論を言えば、宗派の違いも取っ払い、「皆の衆、皆の宗」でいけたら良いのではないのでしょうか。

### 読者プレゼント

同封のハガキにご意見・ご感想・質問などお気軽にお寄せください。



菓匠高木屋  
お菓子  
詰め合わせ

抽選で15名様に

### プレゼント

応募締切 令和6年5月31日(金)

※当選者には、こちらからお届けに伺います。



▲「人を助けるのは人」と語る住職

——能登と金沢の葬儀風習の違いを教えてください。

金沢では葬儀が始まってからお経を上げますが、能登は葬儀の前納経があり、開式の1時間半ぐらい前から始まります。ですから参列者も1時間半前に集まり、葬儀自体も2時間と長めです。  
埋骨に関しては、金沢はお骨壺ですが、能登は全骨です。能登では全ての遺灰を集めて墓に入れ、「先祖と一緒にいる」という風習を守っています。

——震災を受けて、葬儀の在り方はどうなるでしょうか。

「何もかも今まで通り」ではなく、新しい在り方を模索すべき時期が来たと思っています。金沢と能登、葬儀の風習は大きく異なります。でも「金沢だから」「能登だから」と差に注目するのではなく、一体となって「合わせていく力」が必要だと思っています。

能登から金沢に避難して、こちらで亡くなられた方もいます。避難生活が長引けば、金沢で能登の方の葬儀をあげる機会も増えるでしょう。能登の方の想いを受け、金沢が変わる、逆もまたしかり。そういう風に葬儀の在り方が変わるときだと思います。極論を言えば、宗派の違いも取っ払い、「皆の衆、皆の宗」でいけたら良いのではないのでしょうか。

新しい葬儀の在り方は私だけでなく、村井さんとも相談しながら形にしていけたらと思っています。いつの時代も「人を助けるのは人」。能登復興に向けて皆の力を合わせていきたいと思っています。



## 五百羅漢 桂岩寺

〒921-8033 石川県金沢市寺町 1丁目 6-46  
TEL:076-241-1985

……<一如会参禅のご案内>……

毎月1日。志がある方の参禅をお待ちしております。

5時集合 般若心経読経  
坐禅  
法話

6時前解散

昭和48年2月から行われています。

### 編集後記

今回は寺町にある五百羅漢・桂岩寺のご住職様にお話を伺ってまいりました。

当社とは懇意にさせて頂いており、ひと昔前はよくお寺で祭壇を設営し葬儀をしたものです。お話し好きの気さくで、優しいご住職様ですので、皆様も気軽に五百羅漢をご覧になったり、坐禅会に参加してみたりしてはいかがでしょうか。

最後に、この度の震災で被災されました皆様方、心よりお見舞い申し上げます。

### 兼六互助センターからのお願い

■ご住所・ご連絡先が変わられた会員様へ

### 住所等変更をお知らせください

お電話またはEメールにて受け付けております。

**(076)242-0612**

Eメール: [muraigrp@po.incl.ne.jp](mailto:muraigrp@po.incl.ne.jp)



蒲田 敬章 (かまだ きょうしょう)  
五百羅漢 桂岩寺住職

——桂岩寺と五百羅漢について教えてください。

疫病が流行した江戸時代の文化・文政期、「金沢に五百羅漢を安置しよう」と3代かけて実現したことから、桂岩寺は別名「五百羅漢」と呼ばれるようになりました。

五百羅漢とはお釈迦様が亡くなった後、教えを広めるために集まったお弟子さんたちのこと。写真のなかった時代、「五百体の像を拜んだら亡くなった人を思い出せるのでは」と人々は考えていました。その想いに応えようと、京都で彫った羅漢を背負い、金沢に運んだそうです。

——曹洞宗とはどのような宗派ですか？

鎌倉時代、道元禪師を開祖として生まれた宗派です。道元禪師は京都のお公家さんの息子として生まれ、小さいときに両親を亡くしました。生きる上での矛盾を感じ、比叡山延暦寺や臨済宗の建仁寺で修行したものの答えが出ず、中国へ留学。お師匠さんと出会って答えを知り、帰国後に開いたのが曹洞宗です。

最初は京都で布教していましたが、若くて人気者だったそうです。そんな中、六波羅探題の評定衆であった波多野氏から土地を寄進され永平寺を建立されました。

——輪島塗の拡販と曹洞宗、関係がある聞いたことがあります。

曹洞宗の二本山は永平寺と横浜の總持寺ですが、總持寺は元はといえば能登にありました。明治時代の火災により伽藍を焼失、「総持寺祖院」を能登に残し、横浜に移転したんです。

能登にあった当時の總持寺は、住職が定期的に交代する「輪番制」を採用し、全国から住職と、檀家も一緒に来ました。そして任期を終えて

——大きな火災から2度復興したそうですね。

最初は金沢市下傳馬町にありましたが、享保の大火のため現在の寺町に再建されました。そして昭和37年に再び子供の火遊びにより出火、当時50才の先々代がご本尊を担ぎ出し地域の方々に五百羅漢3体を救出して頂きました。

なんとか復興したいと考えた先々代は、京都の「谷口法衣仏具店」先代の谷口新太郎さんの仲介で、京都の仏師・吉岡定雲さんに依頼しました。吉岡さんは先々代の想いを受け止め、25年の歳月をかけて親子2代で完成させてくださいました。谷口

国許へ戻るとき、記念として輪島塗を渡し、持ち帰った各地で注目されて流行ったそうです。



——曹洞宗の教えについて教えてください。

曹洞宗では「あるがまま、ありのまま」という思想を大事にしています。大切なのは、今があるがままに生きること。日が昇る、月が出る、おなががすく、眠たくなる。そうした自然のありのままに過ごすのがいいんです。

だけど感情も湧くし、情報も入っ

氏、吉岡氏、先々代の3名が存命中に五百羅漢を見ることができたのは、先々代にとって無上の喜びだったと思います。



▲五百羅漢

——現在のお仕事について教えてください。

お務めや檀家さんの行事をしながら、能登半島地震に関する活動をしています。曹洞宗の寺は石川県内に134カ寺あり、能登には70カ寺あります。まずは被災状況の情報を公開しなくてはと、各教区長と共に能登の珠洲や輪島などを回り、ホームページで調査結果を報告致しました。寺が全半壊したり墓が倒れたり被害は大きく、現地は混迷を極めている

てくる。だからありのままになるのは難しい。そこから離れるための手段が「坐禅」です。

能登の總持寺祖院で修行したとき、恩師から言われました。「空（から）でこそ手に入る」と。湯呑みがいっぱいなら、いつまでも同じまま。飲み干さなければ新しいお茶は入りません。だから空っぽにしないとだめだし、空っぽにするためには座ることが大事なのだ…。

——坐禅会を開催されているんですね。

坐禅の特徴は、同じ気持ちになれることです。そこで桂岩寺では月に一回、朝5時に集まって坐禅を組む一如会を行っています。般若心経を3回唱えて坐禅し、6時頃に解散。同じことをすれば同じ想いになり、当然ケンカなんてしません。

ちなみに「永平寺」に込められているのは「永久の和平」という想いなんです。道元禪師は、一人で修行してもしょうがない、みんなが同じ想いで生きるようにならないと、社会は平和にならないと説きました。そのためにもみんなで坐禅を組むということが大事だと考えています。

状況です。

こうした中でつくづく思うのが「人を救うのは人だ」ということ。桂岩寺もこれまで、金沢の人や京都の力に救っていただきました。能登も他からの想いや力が必要だし、曹洞宗としても支えていなくてはと感じています。



▲蓮江寺（輪島市）に残った1本の木。半分消失しても生きている。



▲千光寺（珠洲市）



▲金峰寺（珠洲市）

